



大学等地域貢献促進事業(共同プロジェクト研究)

研究成果報告書(2017・3号)

INDEX

〇ごあいさつ ……1

「地域課題をテーマとした
共同プロジェクト研究
のご紹介」

〇大学等地域貢献促進事業の
ご紹介

- ・共同プロジェクト研究 ……2
- ・学生共同プロジェクト研究 ……2

〇地域関連事業のご紹介

- ・わかやま学講座 ……2
- ・お弁当授業 ……2

〇共同プロジェクト研究

- ▶研究一覧(H22~29) ……3
- ▶平成28年度研究成果
(研究課題テーマ分類による)
- ・「農林推薦業の振興」
関連研究 ……4
- ・「誇れる郷土づくり」
関連研究 ……5

〇学生共同プロジェクト研究

- ▶研究一覧(H28~29) ……6
- ▶平成28年度研究成果 ……6・7

〇ご案内 ……8

地域に 学び 地域に 活かす

ごあいさつ



【地域課題をテーマ とした共同プロジェクト研究のご紹介】

高等教育機関コンソーシアム和歌山では、平成13年8月に団体設立以来16年に渡り、和歌山県との連携により補助事業(「大学等地域貢献促進事業」)として、和歌山県経済の発展、地域の魅力向上、県民生活の質の向上など県の活性化に寄与することを目的に、本団体加盟の複数大学・高等専門学校の教員による地域の諸課題をテーマとしたプロジェクト研究を支援して参りました。

この共同研究の成果につきましては、「研究者自ら積極的に地域に向け発信する。」ことを義務付けると共に、支援団体である和歌山県や本団体のホームページでも公表して参りましたが、この度、皆様方により身近に感じて頂くため、報告書として取り纏め、和歌山県の「特産」を活かした健康づくりや医療の充実、魅力ある地域づくりなどの様々な地域課題等をテーマとした取組をご紹介することといたしました。

なお、この報告書は、共同研究の成果報告の他、平成28年度から開始した学生を対象とした共同研究事業やその他の重点事業についてもご紹介しています。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、何とぞご高覧いただきますようお願い申し上げますと共に、このご報告を御縁に、地域の課題解決に向けた一層の産官学連携の進展に繋がれば幸甚に存じます。

今後とも、益々のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年2月

高等教育機関コンソーシアム和歌山
会長 瀧 寛 和



大学等地域貢献促進事業のご紹介

共同プロジェクト研究

【取組の概要】 この研究は、和歌山県との連携により実施しているもので、本団体に加盟している複数の高等教育機関の教員で構成する研究プロジェクトに対し、和歌山県長期総合計画の取組分類に該当するものを研究テーマとして募集し、審査会において毎年4~5件程度を採択しています。研究成果の報告については研究期間（1カ年）終了後のみではなく、その後3年間についても、地域での活用状況や研究の発展状況などの報告を採択条件の一つとしています。

【取組の目的】 本団体に加盟する和歌山県内の高等教育機関並びに教員間の連携・交流の促進及び研究力の向上を目的としています。また、研究プロジェクトを複数の高等教育機関に属する教員で構成・協働することによる異分野間の研究の融合により研究開発機能の強化向上を図ると共に、強化された研究開発機能の活用により和歌山県経済の発展、地域の魅力向上、県民生活の質の向上など県の活性化に寄与することを目的としています。

学生共同プロジェクト研究

【取組の概要】 この事業は、和歌山県との連携により平成28年度から実施しているもので、本団体に加盟している複数の高等教育機関に在学する学生で構成する研究グループに対し、①研究成果活用型研究、②地域課題対応型研究、③自主活動型研究の何れかの分類で設定した研究テーマを募集し、審査会において今年度は2件の研究テーマを採択しました。

【取組の目的】 学生と地域との交流の促進や地域との交流を通じて地域に想いを持つ若者を育てると共に学生のコミュニケーション力や問題解決力・応用力・実践力を養うことを目的としています。また、コンソーシアム和歌山に加盟する複数の高等教育機関の学生が、和歌山県内をフィールドとして、地域が抱える問題解決や地域の魅力発見のための調査・研究、実践活動等に向けた提案などを目的とするフィールドワーク研究を支援し、研究で得た成果を地域に報告・提案することにより地域での活用・実践等による地域の活性化に貢献することを目的としています。

地域関連事業（大学等地域貢献促進事業を除く）のご紹介

わかやま学講座（共同公開講座開催事業）

本団体と和歌山県が連携し、和歌山県下に活動拠点を置く地域団体（NPO・市民団体・学生団体など）から「わかやまの地域の課題や活性化をテーマ」とした講座やフォーラム等の企画を募集し、審査会において毎年5件程度を採択します。なお、講座等の実施は、本団体と県の経費助成を受け採択された団体が行いますが、本団体は、求めや必要に応じ、適任講師の推薦、学術的な指導、実施の際のノウハウの提供等を行っています。

- ＜平成28年度実施講座等＞
- 公開講座
 - ・ 足育フェスタ
 - ・ WAKAYAMA School of Art わかやまアートの学校
 - ・ 歴史と文化を学び地域の創生
 - ・ 女性の夢や願いを実現させるはじめての一步
 - ・ 山間部の防災講座 ～山津波をはじめとした災害
 - フォーラム
 - ・ 南方熊楠の視点

お弁当授業（単位互換特別授業）

この授業は、高等教育機関コンソーシアム和歌山に加盟する大学等の学生が協力し、郷土料理や食文化の伝承をコンセプトに「和歌山県の食材」をふんだんに使用した「和歌山だから作れる」「オリジナルなお弁当」の企画開発に取り組む授業です。授業は、土日・集中型で行い、集合授業とグループワーク、そして成果発表を兼ねた販売によって行われます。



なお、学生が企画したお弁当は、毎年、和歌山県主催の「わかやま食と健康フェア」や和歌山市観光協会主催の「食祭 WAKAYAMA」などで販売し、訪れた地域の方々から、高評価をいただいています。

共同プロジェクト研究一覧(平成22年度～29年度)

この共同プロジェクト研究による異分野間の研究の融合により、より幅や深みのある実用化を見据えた研究が可能となっており、中でも、和歌山県産材の特質や特産物の保健機能成分等を活かした研究については、これらの研究成果が地域の農林水産業や関連産業で活用されるなど、県産業の発展に繋がっています。また、これらの研究成果から産官学の共同研究や共同事業も生まれ、県下広域の経済や文化の発展に貢献しています。

高等教育機関コンソーシアム和歌山

年度	事業 研究	事業(研究)代表者				研究課題(テーマ)分類	事業(研究)名
		大学名	職	氏名	専門		
29	研究	和大	教授	吉田 登	環境システム、環境評価	・自然災害への備え・快適な生活環境の実現	小規模ごみ焼却施設でのエネルギー地産地消による環境・防災効果と事業性の評価
		近大	教授	泉 秀実	食品保全学	県内企業の成長力強化	紀州金山寺味噌の衛生的製造・出荷とその普及
		県医大	講師	多中 良栄	有機化学・分析化学	農林水産業の振興	干柿加工時におけるビタミンC減少過程の有機化学的解明とビタミンCを豊富に含有する干柿製造法の開発
		近大	准教授	岸田 邦博	食品機能学、栄養生理学	農林水産業の振興	サンショウ由来機能性成分によるメタボリックシンドローム改善作用メカニズムの解明
28	研究	県医大	准教授	池田 敬子	急性期看護学、感染論(ウイルス学)	農林水産業の振興	和歌山県産農林生産物から得られた消毒活性物質の作用についての解析とそれらの感染症対策への応用に向けた研究
		県医大	講師	井原 勇人	分子病態生理学、分子イメージング	健康わかやまの実現	熟産生タンパク質UCP-1発現を指標とした和歌山県特産農産物由来抗肥満成分の探索法の確立とその有用性の検証
		和高専	准教授	奥野 祥治	生物有機化学	農林水産業の振興	加熱高圧処理による農産物エキスの機能性向上
		高野山大	准教授	森本 一彦	社会学、民俗学、歴史学、高野文化圏研究	誇れる郷土づくり	地域創生における地域おこし協力隊の現状と課題克服のための研究
27	研究	県医大	特別研究員・医師	竹島 健	糖尿病・内分泌代謝学	健康わかやまの実現	和歌山県特産食物由来の保健機能成分による抗肥満作用に関する研究
		県医大	講師	池田 敬子	急性期看護学、感染論(ウイルス学)	農林水産業の振興	和歌山県産植物抽出液中に見出された殺ウイルス活性の解析とその応用に向けた基礎的研究
		和高専	准教授	伊勢 昇	土木計画学・交通工学	誇れる郷土づくり	地方都市における都市構造の特性を踏まえた中心市街地活性化施策の評価に関する研究
26	研究	県医大	特別研究員・医師	竹島 健	糖尿病・内分泌代謝学	健康わかやまの実現	和歌山県特産果実に含まれる保健機能成分による脂質代謝改善、糖尿病予防に関する研究
		県医大	講師	池田 敬子	急性期看護学、感染論(ウイルス学)	農林水産業の振興	和歌山県産農作物に由来する物質のもつ抗ウイルス活性の探索およびウイルス感染制御への応用に向けた基礎的研究
		和高専	教授	霧巻 峰夫	環境計画、環境影響評価	環境・自然の保全	資材ストック量を考慮した災害廃棄物量の予測手法に関する研究
		和大	特任教授	湯崎 真梨子	地域再生論・内発的發展論、食料経済学・農村社会学	・少子高齢化対策・健康和歌山の実現・誇れる郷土づくり・環境自然の保全	食事と暮らしから見た山村高齢者の「健康と自立」に関する生活実態調査
25	研究	近大	講師	岸田 邦博	食品機能学、栄養生理学	農林水産業の振興	ウメ果実に含まれる主要ポリフェノール成分ヒドロキシ桂皮酸類のメタボリックシンドローム発症予防効果の検証
		和大	准教授	中串 孝志	惑星気象学・ジオツーリズム	・観光の振興・誇れる郷土づくり・環境自然の保全	紀南地域のジオコンテンツと文化・精神性との関連性の探求とフィールドガイド養成のための教材開発
		和大	特任教授	湯崎 真梨子	地域再生論・内発的發展論・食料経済学・農村社会学	商工業の新興・農林水産業の振興・誇れる郷土づくり・環境自然の保全	「食と農の学校」運営による若年者育成モデルの開発
		信愛大	准教授	森下 順子	保育学・子育て支援・発達心理学	少子高齢化対策	「地域子育て支援」の強化に向けた地域と大学の連携に関する研究
24	研究	県医大	講師	井原 勇人	分子病態生理学、分子イメージング	健康わかやまの実現	生体イメージング可視化技術を用いた和歌山県特産果実由来機能性素材の探索とメタボリック症候群発症予防効果の検証
		和高専	助教	西本 真琴	生物物理化学、コロイド界面科学	農林水産業の振興	高圧力処理による水産物の加工技術の検討
		和大	教授	本多 友常	建築設計	商工業の振興	既存流通材(紀州材)を利用した簡易な大屋根・大床工法の開発
		和大	准教授	平田 隆行	農村計画、地域計画、建築設計	農林水産業の振興	県産材を用いた応急木造仮設住宅に関する研究
23	研究	県医大	教授	岸岡 史郎	薬理学 神経科学	健康わかやまの実現	クロス・アディクションの病態生理を担う脳内ミクログリア活性化機構の解明
		近大	教授	宮下 実	野生動物医学	環境・自然の保全	文化財への被害防止を目的としたアライグマの生息実態に関する調査研究
		和高専	准教授	奥野 祥治	生物有機化学	農林水産業の振興	農業廃棄物の有効利用を目指した機能性解明に関する研究
		近大	教授	木戸 啓仁	食品流通・マーケティング	商工業の振興	商工業の振興
22	研究	和大	准教授	村田 和子	社会教育・生涯学習	-----	地域の子育て支援力の形成と強化に関する検討
		和高専	助教	林 和幸	地盤工学	-----	生体触媒を活用したカルサイト析出による液状化対策技術の開発
		県医大	准教授	宇都宮 洋才	細胞生物学・栄養生化学	-----	和歌山県伝統産業の振興と農林水産物を用いた特産品の開発
		和高専	准教授	岩本 仁志	分析化学・計算化学	-----	花木・果実の香りを利用した特産品の開発に向けて

加熱高圧処理による農産物エキスの機能性向上

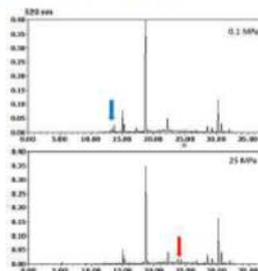
(和歌山工業高等専門学校) 奥野祥治・西本真琴 (和歌山県立医科大学) 宇都宮洋才・河野良平
(長岡工業高等専門学校) 赤澤真一

緒言

近年、農産物や食品の加工に高圧力を利用することが注目されている。高圧力処理は熱をかけずに加工できることから、熱加工による化学反応が起きないため、風味や色合いを自然に近い形で残すことができる。一方、農産物そのものやエキ스에高圧力をかけることで、成分同士が反応し、新規な成分が生成し、機能性の向上なども期待できる。本研究では、高圧処理時に加熱を加えることで成分同士の反応を加速させ、農産物エキスの機能性の向上を目的とした。

結果

1. HPLC分析



加熱高圧処理した果皮のエキスでは成分の変化が見られ、未加圧サンプルには見られない新しいピークが数種類確認された(右図)。

実験サンプル



ジャバラエキス1
果皮水抽出液をデカンテーション
ジャバラエキス2
エキス1を0.22μmのフィルターで過
果皮エキス
果皮をパウチいれ真空とした
加圧処理後、メタノールで抽出

加熱高圧処理

Servo Pressure 500(スギノマシン)を用いて、25、50℃でそれぞれ25、50、100MPaの圧力で30分間処理した。



HPLC分析



高速液体クロマトグラフィー(HPLC)分析は、Alliance e2695(Waters)を用いて行った。

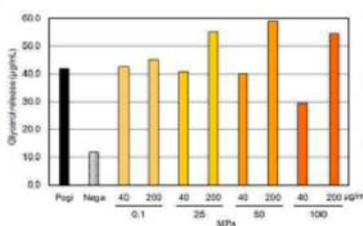
生理活性試験

- ①抗肥満活性
脂肪細胞3T3-L1を用いた脂肪分解活性で評価
- ②アポトーシス誘導活性
胃がん細胞MKN45に対する増殖抑制活性で評価
- ③抗酸化活性
DPPHラジカル捕捉能試験で評価

香気成分分析

果皮(400mg) → MonotrapDCC18で香気成分を吸着(60℃、30分間) → 成分をジクロロメタンで抽出し、抽出液をGC-MSにより分析した。

2. 抗肥満活性

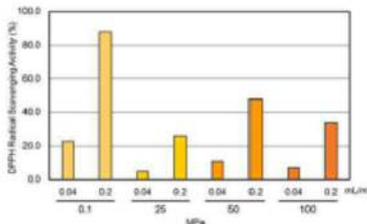


ジャバラエキス1の50℃加圧処理群において未加圧のものよりも200μg/mLにおいて、活性の増加が見られた(右図)。

3. アポトーシス誘導活性

どのサンプルにおいても活性および活性の増加見られなかった。

4. 抗酸化活性



果皮の加熱加圧処理群で未加圧のものよりも活性の減少がみられた(右図)。他のサンプルについては未処理群と活性に差はみられなかった。

5. 香気成分分析

25、50℃の両方において25、50MPaで処理することでTerpinen-4-olおよびα-Terpineolなどのモノテルペンアルコールの含有量が相対的に増加する傾向にあった(下表)。

RT	Compound	25℃				50℃			
		0.1	25	50	100	0.1	25	50	100
11:16	α-Thujene	trace	0.19	0.20	trace	0.16	0.25	trace	trace
11:31	α-Pinene	0.59	0.59	0.60	0.57	0.48	0.76	0.42	0.40
13:14	β-Pinene	0.76	0.85	0.78	0.78	0.72	1.06	0.66	0.62
14:00	β-Myrcene	41.49	34.14	32.92	35.55	33.19	31.05	36.51	35.39
14:12	α-Phellandrene	0.33	0.56	0.59	0.41	0.84	1.18	0.34	
14:32	α-Terpinene	0.38	0.43	0.36	0.30	0.45	0.58	0.28	0.24
14:45	p-Cymene	3.03	4.42	4.28	5.84			5.14	5.25
14:56	Limonene	35.51	33.87	32.98	37.47	37.13	32.86	36.12	38.07
15:07	Benzylalcohol	0.09	—	0.33	—	—	0.18	0.28	—
15:26	β-Cosimone	trace	—	—	—	—	—	—	—
15:39	γ-Terpinene	16.34	21.10	18.66	16.50	23.08	24.52	16.93	14.05
16:15	Terpinolene	0.96	1.24	0.96	0.68	1.56	1.94	0.67	0.51
16:54	p-Mentha-2,8-dien-1-ol	—	—	0.88	—	—	—	—	—
17:56	Terpinen-4-ol	0.08	0.82	1.20	0.62	0.33	1.03	0.80	1.46
18:10	α-Terpineol	0.11	0.41	0.78	0.22	—	1.19	0.96	2.10
18:20	Carveol	—	—	1.81	—	—	—	—	—
18:47	Geraniol	—	—	—	—	—	0.41	0.41	0.50
19:25	Linalol oxide	—	0.26	—	0.19	0.38	—	—	—
20:40	Neryl acetate	trace	—	—	—	—	—	—	—
22:35	Farnesene	0.33	1.10	2.13	0.87	1.59	2.61	0.46	0.47

地域創生における地域おこし協力隊の現状と課題克服のための研究

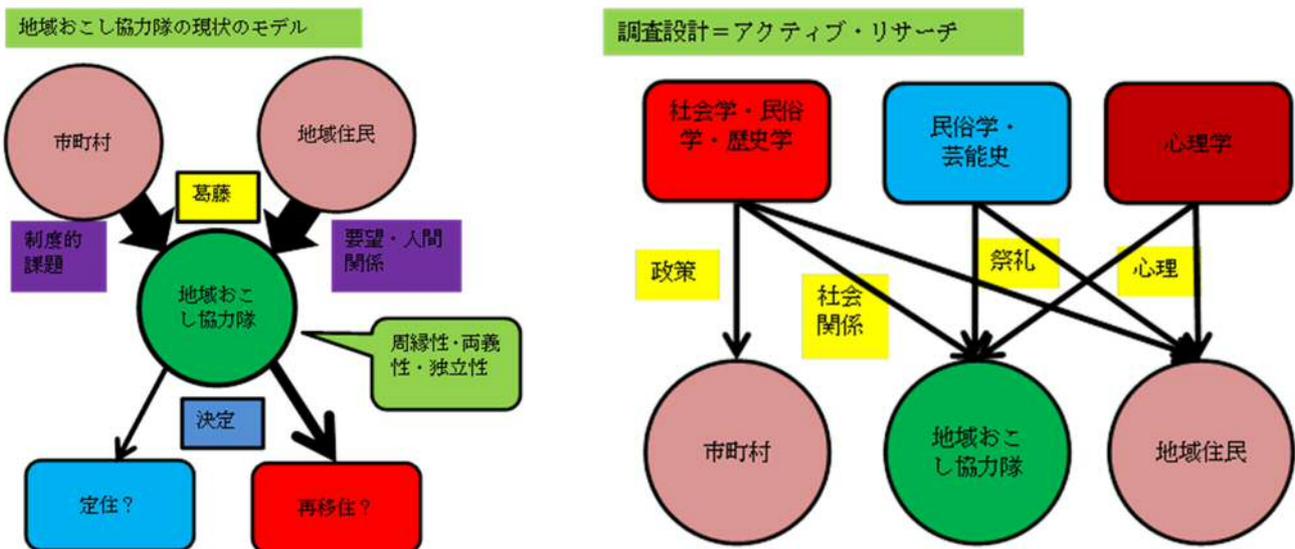
研究代表者：森本一彦（高野山大学）

共同研究者：森崎雅好（高野山大学）、吉村旭輝（和歌山大学）

研究目的：地域創生において活躍を期待される地域おこし協力隊の実態と問題点を明らかにすることを目指し、地域おこし協力隊を中心とした地域のあり方について検討するとともに、そのような地域が実現するための環境づくりを目指す。

調査対象：高野山周辺の地域おこし協力隊、自治体、住民

現状理解と調査法：



調査内容：

- ①高野町の地域おこし協力隊の定例会議への参加
- ②研修交流会の開催（写経・瞑想など宗教体験＋ディスカッション）
- ③伝統文化の調査と記録 高野山周辺の盆行事 →記録保存、地域資源の発信、地域の求心力
- ④高野山大学の学園祭への参加 →地域の中心としての大学づくり
- ⑤高野町の委員会への参加 →行政への理解と必要とされる人材
- ⑥地域おこし協力隊の活動調査 →高野紙のブランド化、直販所の運営

結果：

- ①地域おこし協力隊の業務内容・業務時間 →定住に向けた準備期間になるか？
- ②行政・住民の間に立つ地域おこし協力隊 →セルフ・コントロールの修得＝宗教体験
- ③宗教体験を含めた研修プログラムの開発
- ④伝統文化の調査と記録の必要性

課題：

- ①研究の継続と外部資金の獲得
- ②アンケート調査の実施



学生共同プロジェクト研究一覧(平成28～29年度)

高等教育機関コンソーシアム和歌山

年度	研究グループ			分類	事業(研究)名
	研究代表者		参加機関		
	大学名	氏名			
29	近大	藤枝 志穂	近大、和太	自主活動型研究	大学生から見た災害非常時の聴覚障がい者への情報伝達のあり方について一熊本の体験を紀北に活かす
	和太	加藤 史也	和太、県医大、信愛短大	自主活動型研究	3大学連携地域活性化に関する研究
28	和太	辻合 悠	和太、信愛大、県医大	自主活動型研究	3大学の学生が協働して、かつらぎ町天野地域を研究対象に、地域交流の拠点であった天野小学校の廃校、地域で進行する少子高齢化問題などの諸課題の改善・地域活性化にむけて、学生の活力をどのように活かせるかについての方法論を実践的に明らかにする。また、学生と地域との交流の促進や地域との交流を通じて地域に対しての想いを育てると共に、学生のコミュニケーション力や問題解決力・応用力・実践力等がどの様に生成されていくかについても明らかにする。
	和太	村田 直寛	和太、高野山大	自主活動型研究	高野山における若年層観光客増加を目的とした需要分析

平成28年度研究成果

3大学連携天野地域活性化プロジェクト

実施団体：社会教育・生涯学習サークル「わかまなび」



<写真：丹生都比売神社>

天

天野地域は、和歌山県かつらぎ町南部にあり、「天野の里」とも呼ばれています。自然豊かで歴史のある地域で、「にはほんの里100選」や環境省より「ふるさと生きものの里」に認定されています。春にはハナモモが美しく咲き、初夏には源氏ポタルの乱舞が見られます。秋は稲穂の波が美しく、冬には世界文化遺産として登録されている丹生都比売神社が雪化粧をします。

天野地域には、将来性のある天野の里づくりのために環境保全や農業体験など、様々な活動を進めている「天野の里づくりの会」があり、プロジェクト実施にあたり、活動の受け入れや指導・助言をしていただいています。

3

大学の学生が協働して、かつらぎ町天野地域を研究対象に、地域交流の拠点であった天野小学校の廃校、地域で進行する少子高齢化問題などの諸課題の改善・地域活性化にむけて、学生の活力をどのように活かせるかについての方法論を実践的に明らかにしようとしています。また、学生と地域との交流促進を通じて地域に対しての想いを育てると共に、学生のコミュニケーション力や問題解決力・応用力・実践力等がどの様に生成されていくかについても活動を通じて明らかにしていきます。



<写真：天野の四季>



<写真：プロジェクトの活動の様子>

今

期の活動は8月の地域でのオリエンテーションをはじめとし、6部会(地域活性・地域医療・子育て・歴史観光・農業・環境保全)に分かれ活動しました。11月には全体でのPFIを行い、地域の交流センター(元天野小学校)で、地域での秋祭りを行いました。2月には活動をかつらぎ町の方々を中心に伝えたいという思いから、独自の報告会を開きました。今期は各部会でテーマを決め、地域のキーパーソンに教えてもらいながら地域を知ることができました。私たちはまだ、中間段階です。今後とも、地域と関わり、学ぶ中で地域を捉え、地域に活かしていくことが求められます。

高野山における若年層観光客増加を目的とした需要分析

はじめに

研究背景と目的

和歌山県の世界文化遺産である高野山は宗教の聖地として知られており、かねてより様々な参拝客が訪れていた。近年、参拝客だけでなく高野山の情景や雰囲気などを目当てに観光客が訪れるようになっており、高野山は宗教の聖地としてだけでなく、観光地としての機能も持ち合わせるようになってきた。しかし、観光客が増えてきている若年層観光客の割合は低い状態が続いた。

今回の研究は、高野山大学の学生と協同し、高野山を観光地として見た際、若年層はどのような体験を高野山に求めるのかを分析することを目的とし、若年層観光客の増加を目指すための指標とする。その際に、高野山の住職やその見習いである高野山大学の学生は高野山が観光地として注目されることをどのように考えているのかも、併せて聞き取り調査等を行う。

実施方法

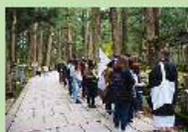
① ツアー

和歌山大学及び高野山大学の学生が協働し、実態を客観的に観察できるフィールドワークの一つとして、大学生を参加者とするツアーを実施。ツアーは、体験型及び見学型ものを企画する。ツアー後は、参加者にアンケート調査をし、ツアータイプの違いが満足度に与える影響を分析する。

●実施日：2016年10月23日

●内容：

- ・高野山を散策し、建物や景色を体験するコース・・・23人
- ・宿坊で高野山の宗教、慣習を体験するコース・・・10人



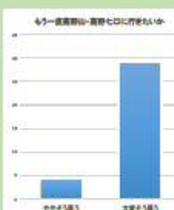
アンケート調査の結果(ツアー)

① ツアー後アンケート

回答者：33人

※質問項目、各2つのツアーに就いて比較した

- 「高野山で散策したから、高野山の情景が印象に残った」
- 「高野山で散策したから、高野山の情景が印象に残った」
- 「高野山で散策したから、高野山の情景が印象に残った」



質問項目：高野山のどこに魅力を感じたか

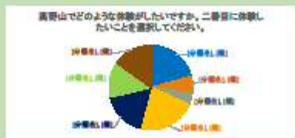
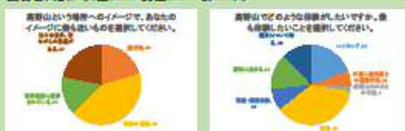
- | 散策コース | 宿坊コース |
|-----------------|-----------------|
| ● 高野山の情景が印象に残った | ● 高野山の情景が印象に残った |

アンケート調査の結果(Web)

② 高野山に対するイメージ調査

WEBアンケートを不特定多数の若者(18歳～25歳)を対象に行い、①高野山でも体験したいこと、②二番目に体験したいこと、③高野山という場所へのイメージについて調査を行う。それにより、高野山にほとんど訪れたことのない人たちが持つ、高野山に対するイメージについて調査し、ツアーアンケートと比較した。

回答者内訳：女性：136 男性：78 計214人



高野山地域の方への聞き取り調査

土産物店店主

「2,30年先は今の20代(私たちの世代)の人々が大人になっており、地域の中心世代となる。また、今の子どもたちも大人になっている。今の若者に高野山を面白いと感じてもらえることができれば、大人になっても来てもらえるのではないかと。また、時代の流れとともに高野山の捉え方もさまざまになっている。伝統を守ることももちろん大切だが、単に維持していくだけでは続かない。時代の変化にどこまで合わせるのかが課題ではないだろうか。」

宿坊住職

「最近増えてきたが、完全に「観光客」。高野山の意味(宗教都市)を理解して、ただ観に来るのではなくて拝みに来てほしい。拝むと言ってもそんなに大した事ではなく、観光しながらも、お大師さんなどに手を合わせてみたり、参拝方法に気を付けてみたり、とかその程度で。また、地域活性＝雇用・居住を生み出すこと。だから、若い働き手(移住者)を増やすことは重要。そのために若者たちのような学生団体(和歌山大学と高野山大学の共同チーム)の活動を通して若者が高野山を知ることは必要なことではあると思う。」

研究結果(ツアー、Webアンケート)

ツアー後アンケート結果より若年層観光客は高野山の「雰囲気」「景観」「宗教面」のいずれにも魅力を感じていることが分かった。

また、WEBアンケートより若年層観光客は高野山で散策、ハイキングを体験したいと考えていることが分かった。

研究結果(聞き取り調査)

土産物店店主

高野山の一般市民の方は今の若者が高野山に興味を持つということは今後の高野山の活性化に必要な要素であると考えていることが分かる。また、より年齢層の低い子供たちにも焦点を与えていくことが重要であるとも考えている。そのためにも高野山の見せ方を変えていき、子供たちや若者に親しみを持ってもらいやすくするといった変化は、受け入れていくべきであると考えていることが分かった。

高野山住職

高野山住職の方は観光客として来るだけでなく、高野山としての特性を理解した上で観光に来てほしいという考え方が分かった。ただただ高野山の景色や風景を楽しむのではなく、高野山が宗教の聖地であることを理解し、参拝するという気持ちを忘れないでほしいことであった。

研究結果・まとめ

高野山における若年層観光客の需要は「雰囲気」「景観」「宗教面」、更に「散策」「ハイキング」にも需要があることが分かった。しかし、高野山地域の方からは宗教の聖地であることの理解を大事にしてほしいとの意見もあった。今後、高野山に若年層観光客を誘致するにはこれらを取り入れた内容にすることが重要であると言える。また、観光客地震には参拝するという気持ちを持ってもらうことも重要である。

今後の展望

高野山地域の方には、若者が高野山に来ることには前向きな考え方が見られた。しかし、高野山は宗教の聖地であるため、その理解を欠いては高野山地域の方の理解は得られない。そこには若者の高野山への理解が必要不可欠である。

今後の展望として、若者が高野山を理解するきっかけとして、宿坊でのインターンシップを提案する。このインターンシップでは外国人客が多数訪れる宿坊に協力してもらう。学生が宿坊で数日間働くこと、高野山や宿坊の実情、更に外国人観光客への接客業などの勉強ができる。これが実現すれば高野山への理解のある学生が増え、若年層観光客の増加も期待できる。

ご案内

本資料について

- 「共同プロジェクト研究一覧」P.3について
このページでは、平成22年度から現在までの研究の概要をまとめています。
 - ・平成29年度の研究については、現在研究中です。
 - ・平成26～28年度の研究については、補助事業としての研究は、当該年度で終わっていますが、その後3年間についても同様の研究テーマや異なる研究テーマの中などで継続して研究されています。
- 「平成28年度研究成果」p.4～5について
これらのページでは、平成28年度に実施された4つの研究のうち2つの研究についての概要を簡潔にまとめています。他の2件については、特許出願等の関係上掲載を控えさせていただいています。
- 共同プロジェクト研究の詳細について
この報告書でご紹介しています各「共同プロジェクト研究成果」の詳細につきましては、高等教育機関コンソーシアム和歌山ホームページ（又は和歌山県のホームページ）に掲載していますのでご参照ください。本コンソーシアムのホームページでは「平成〇年度大学等地域貢献促進事業【成果報告】」という形で平成22年度から平成27年度までの研究成果を掲載しています。和歌山県のホームページには平成18年度から平成27年度までの研究成果が掲載されています。
- 「学生共同プロジェクト研究一覧」P.6について
このページでは、平成28年度から現在までの研究の概要をまとめています。
- 「平成28年度研究成果」p.6～7について
これらのページでは、平成28年度に実施された2つの研究についての概要を簡潔にまとめています。

連携のお誘い

- 産官学の連携について
この報告書に記載の研究についてご関心のある方は、本コンソーシアム・事務局にご連絡ください。産官学・産学・官学の連携につきましては、基本的には下記の3つの形態で実施しています。なお、この他にも様々な形態での連携も考えられますので、ご遠慮なくお問い合わせください。
 - ①学術指導
研究者が専門的知識に基づき助言・指導・調査等により企業や自治体等の業務や活動を支援する制度です。
 - ②共同研究
大学等が企業や自治体等から研究経費を受け入れ、研究者と企業や自治体等の研究者が対等の立場で共通の課題について研究します。企業や自治体等の研究者が大学等の研究施設で研究を行う「派遣型」と、それぞれの研究者が所属する機関の施設で研究を行う「分担型」があります。
 - ③受託研究
企業や自治体等の側に研究者がいない場合に、企業や自治体等からの課題とともに委託・研究経費を受けて、大学等の研究者が行う研究です。

メーリング・リストへのご登録について

この度の研究成果等のご報告につきましては、前号に引続き郵送させて頂きましたが、次年度以降は、基本的にはメールによるご案内を予定しています。つきましては、このご報告に興味を持たれ次年度以降も情報提供をご希望される場合は、誠にご面倒ですが、以下についてご回答いただきますようお願い申し上げます。なお、今後の発信情報につきましてはこの共同研究に限らず、本コンソーシアム加盟機関の教員や学生が連携して行う地域活動等についても情報を提供させていただくことを予定しています。

「メーリング・リストへのご登録について」

- ・w-conso@center.wakayama-u.ac.jp（高等教育機関コンソーシアム和歌山・事務局）宛にメールにて「メーリング・リスト登録希望」と記載頂き、下欄の事項についてお知らせください。
なお、ご登録いただく際のメールアドレスは「人事異動」等にも対応できるよう、可能であれば部署（課・係・チーム等）のアドレス（エイリアス）でご登録頂ければ幸いです。

<ご登録内容>

- 所属機関・企業等名：
- 所在地番等：
- ご担当部署・ご役職名：
- ご氏名：
- メールアドレス：
- 電話・FAX：

■ 加盟機関

- ▶和歌山大学
- ▶和歌山県立医科大学
- ▶高野山大学
- ▶近畿大学生物理工学部
- ▶和歌山信愛女子短期大学
- ▶和歌山工業高等専門学校
- ▶放送大学和歌山学習センター

(加盟機関数：7団体)

お問い合わせ

高等教育機関コンソーシアム和歌山

【事務局】

和歌山大学総務課内
〒640-8510 和歌山市栄谷930番地
TEL：073-457-7102
(土・日・祝を除く9:00～17:00)
FAX：073-457-7000
MAIL：w-conso@center.wakayama-u.ac.jp
URL：http://www.consortium-wakayama.jp/